

# 平成27年度 全国学力・学習状況調査より

平成27年4月21日に、中学校3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の調査結果をまとめたものです。

## 1. 学力調査（各教科）の分析と対策

### (1) 国語

#### ①国語A 主として「知識」に関する問題

##### 【成果】

「話す・聞く能力」「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」を問う問題の平均正答率が高い数値となっており、「読む能力」については非常に高い数値となっている。

- ◎相手の反応を踏まえて話す。
- ◎書いた文章を読み返し、語句の選び方や使い方を工夫して書く。
- ◎登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する。
- ◎登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する。
- ◎文章から適切な情報を得て、考えをまとめる。
- ◎表現の特徴を捉える。
- ◎文脈に即して漢字を正しく読む。
- ◎毛筆を用いて、楷書で文字を書く。
- 意見を支える根拠の明確さについて助言する。
- 目的に応じて要旨を捉える。
- 伝えたい事柄が明確になるように文章の構成を考える。
- 伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く。
- 必要に応じて質問しながら聞き取る。
- 文脈に即して漢字を正しく書く。
- 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。
- 漫画の内容を参考にして、登場人物の思いやものの見方を想像する。
- 代表的な古典の作品に関心をもつ。

##### 【課題】

「言語についての知識・理解・技能」を問う問題で、文法の領域に課題がある。

△単語の種別について理解する。

#### ②国語B 主として「活用」に関する問題

##### 【成果】

「話す・聞く能力」を問う問題の平均正答率が高い数値となっている。

- ◎効果的な資料を作成し、活用して話す。
- ◎表現の工夫について自分の考えを持つ。
- 状況に応じて、資料を活用して話す。
- 目的に応じて文章を要約する。

##### 【課題】

「国語への関心・意欲・態度」「書く能力」を問う問題に課題がある。  
(出題の意図を勘違いし、資料の読み取りはできたが、自分の意見を述べるまで至らなかった)

- ▲複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く。
- ▲文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く。

##### 【国語の対策】

- ①「文法」など基礎的な言語事項の習得のための学習活動を繰り返し行う。
- ② 根拠を明確にした文章を書く場面を多く取り入れる授業を設定する。
- ③ 自分の考えや立場、根拠を明確にし、わかりやすく伝える力を付けるため、また、観点を明らかにして聞く力を育てるため、話し合いの場面を多く取り入れる授業を設定する。
- ④ 習得した知識や技能を活用し、多種の情報をういて、なじみの薄い語句や使用頻度の低い漢字などを調べ、語彙を豊富になるような学習の場を設ける。

## (2) 数学

### ①数学A 主として「知識」に関する問題

#### 【成果】

「数と式」「図形」の領域についての「数学的な技能」を問う問題の平均正答率が高い数値となっている。

- ◎比の意味を理解している。
- ◎加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがって計算できる。
- ◎一次式の減法の計算ができる。
- ◎方程式を解く場面における等式の性質の用い方について理解している。
- ◎小数を含む一元一次方程式を解くことができる。
- ◎直角三角形の斜辺を軸とする回転によって構成される空間図形の形を理解している。
- ◎与えられた投影図から空間図形を読み取ることができる。
- ◎同位角の意味を理解している。
- ◎証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。
- ◎関数の意味を理解している。
- ◎時間と道のりの関係を表すグラフから、時間における道のりを読み取れる。
- ◎与えられた資料の度数分布表について、ある階級の度数を求めることができる。
- 正の数と負の数の乗法について理解している。
- 正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解している。
- 等式を目的に応じて変形できる。
- 多角形の内角の和の性質を理解している。
- ひし形の「対角線は垂直に交わる」という性質を、記号を用いた表現から読み取れる。
- 与えられた比例の式から、グラフ上の点のx座標を基にy座標を求められる。
- 一次関数の表から、xとyの関数を式で表すことができる。
- 起こり得る場合を順序よく整理し、場合の数を求めることができる。
- 具体的な事象における数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくれる。
- 簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。
- 与えられた比例のグラフから、xの変域に対応するyの変域を求められる。

#### 【課題】

「数と式」「資料の活用」の領域についての「数学的な技能」、「図形」「関数」の領域についての「数学的な知識・理解」を問う問題に課題がある。

- ▲数量の関係を文字式に表すことができる。
- ▲証明の必要性和意味を理解している。
- ▲二元一次方程式の解を座標とする点の集合は、直線として表されることを理解している。
- ▲与えられた資料から中央値を求めることができる。
- 多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している。

### ②数学B 主として「活用」に関する問題

#### 【成果】

「数と式」の領域についての「数学的な見方や考え方」を問う問題の平均正答率が高い数値となっている。

- 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。
- 発展的に考え、予想した事柄を説明できる。
- 事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明できる。
- 与えられた式から事象における2数量の関係が比例であると判断できる。

#### 【課題】

「図形」「関数」「資料の活用」の領域について「数学的な見方や考え方」を問う記述式問題に課題がある。

- ▲与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理できる。
- ▲必要な情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈できる。
- ▲事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明できる。
- ▲図形に着目して考察した結果を基に、問題解決の方法を図形の性質を用いて説明できる。
- ▲資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できる。
- ▲与えられた表や式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明できる。

#### 【数学の対策】

- ① 課題を持った家庭学習を励行し、既習事項のより確実な定着を図る。
- ② 単元において、習得した知識や技能を「活用」する問題を取り入れた授業を配置する。
- ③ 一単元の授業の中で、できるだけ多くの「確認問題」や「練習問題」に取り組む活動を設定する。
- ④ 既習事項をもとに、構想を立て、根拠を明確にして事柄が成り立つことを説明する場面を授業の中に設定する。(言語活動の充実)
- ⑤ 資料の傾向を的確に捉え、数学的な表現、考え方をを用いて判断の理由を説明する活動を充実させる。

(3) 理科

①主として「知識」に関する問題

【成果】

「自然事象についての知識・理解」を問う問題の平均正答率が高い値になっている。

- ◎塩化ナトリウムを化学式で表すことができる。
- ◎天気の記事から風力を読み取ることができる。
- デンプンが消化酵素によって分解されて、最終的にできる物質の名称を表すことができる。
- 背骨のある動物を、セキツイ動物と表すことができる。

【課題】

地学的領域の「観察・実験の技術」を問う問題に課題がある。

▲天気の記事から風向を読み取り、風向計を使って風向を観測できる。

②主として「活用」に関する問題

【成果】

生物的領域の「科学的な思考・表現」についての問題の平均正答率が高い値になっている。

- グラフを分析して解釈し、化学変化について正しく読み取ることができる。
- 実験の結果を分析して解釈し、キウイフルーツはゼラチンを分解することを指摘できる。

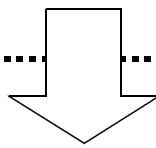
【課題】

物理的領域・地学的領域の「科学的な思考・表現」を問う問題に課題がある。

- ▲実験結果を分析して解釈し、炭酸水素ナトリウムを溶かした方の試験管を指摘できる。
- ▲他者の考察を検討・改善、水の状態変化と関連付けて雲の成因を説明できる。
- ▲露点を測定する場面において、最も高い湿度の時刻を指摘できる。
- ▲一定の時間に多くの雨が降る原因を探る実験を計画できる。
- ▲凸レンズでできる像を調べる実験結果を分析・解釈し、規則性を指摘できる。
- ▲音の高さは、「空気の部分の長さ」に関係していることを確かめる実験を計画できる。
- 気圧の変化で菓子袋が膨らむことについてモデルを使った実験を計画できる。

【理科の対策】

- ①「授業のねらい」を明確に持ち、「振り返り」を行う。
- ② 単元テスト等を行い、既習事項を定着させる。
- ③ 授業の中で、根拠を示しながら話し合い活動や発表活動（話す聞く態度の育成）を行う。
- ④ 実験前に、仮説を立て、検証実験を計画（特に独立・従属変数、変える・変えない条件に注目）する場面を単元の中に設定する。
- ⑤ 実験後に、条件や結果を注意深く読み取り（仮説と一致しているかを検討）、性質や規則性を見いだすなど、考察を深化させる場面を設定する。
- ⑥ 家庭学習を励行し、既習事項の定着と、根拠を示しながら説明させる場面を設定する。



※ 学力調査より、全体を通しての対策（全教科の取り組み）

- ①「授業のねらい」を明確にもち、「振り返り」を行う。
- ②「個に応じた授業」の展開（習熟度別学習、発展的・補足的な学習など授業の指導方法の工夫・改善）
- ③「学習形態」の工夫（グループ活動、話し合いなど）
- ④「教材」の工夫（興味関心、知的好奇心、有用感がわく）
- ⑤「言語活動」の充実（思考力・判断力・表現力を高める）
- ⑥「学びの連続」の指導（家庭学習など学び方を身につけさせる）

## 2. 学習状況調査（生徒質問紙）の分析と対策

### （1）学習に対する関心・意欲・態度

#### ①国語、②数学、③理科、総合的な学習の時間の分析（本校の傾向）

##### 【国語】

○国語の勉強に意義を感じ、読書が好きな生徒も多い。また、自分の考えが伝わるように工夫している生徒が多い。

△国語の勉強への意欲や授業内容の理解に課題を感じている生徒がやや増加した。（昨年の南町中に比べて）

##### 【数学】

○数学への関心・意欲がとて高く、授業の理解も高い。また、問題を解くとき、いろいろな方法を考える生徒が多い。

△学習したことを普段の生活の中で活用しようとする生徒が半数程度だった。

##### 【理科】

○理科への関心・意欲がとて高く、授業の理解も高い。また、自然との接点や観察・実験を行う機会が多く、観察・実験への関心・意欲がとて高い。

△予想をもとに実験を計画したり、考察できる生徒は多いが、説明したり発表できる生徒は半数だった。また、将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う生徒は少なかった。

##### 【総合的な学習の時間】

○将来役に立つと感じている生徒が多く、課題からまとめまで取り組んでいる。

### （2）学習及び指導の状況

#### ①言語活動、②指導の状況の分析（本校の傾向）

##### 【言語活動】

□発表・話し合い活動で、意見を伝える・聞くことができると感じている生徒は多いが、説明や意見を文章に書くことが難しいと感じている生徒は半数以上いる。

##### 【指導の状況】

□授業の目標が示されていると感じている生徒は多いが、振り返り活動に関しては6割程度だった。

○授業中分からないことを聞く相手は、友人が最も多く、放置が少ない。（教え合う関係づくりの成果）

### （3）学校生活等についての分析（本校の傾向）

○学校が楽しく、達成感を感じている生徒や自尊心の高い生徒が多い。（現状に満足しているよう）

○人の気持ちが分かる人間に、役に立つ人間になりたいと考えている生徒が非常に多い。

### （4）学習習慣

#### ①家庭学習の時間の長さ、②家庭学習の内容の分析（本校の傾向）

○家庭学習は、自分で計画を立てて取り組む生徒が6割いて、平日・休日共に1時間以上やっている生徒が多くなった。（全国・昨年の南中に比べて）

□学習塾で勉強する生徒は5割程度（全国・昨年の南中に比べて減少）

□学習内容は、ほとんどの生徒は宿題、さらに7割半が復習、3割半が予習を行っている。

### （5）生活習慣についての分析（本校の傾向）

○規則正しい生活をしている生徒が多い。

○1時間以上ゲームをする生徒や、携帯電話の所持率、2時間以上NETを使用する生徒が減少した。（昨年の南中と比べて）

○読書や図書館等を利用する生徒は多い。（朝読書の効果）

○家族との会話や、学校行事に参加する保護者がとて多く、学校への関心や、家族のつながりが強い。

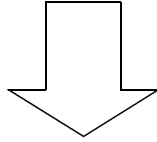
### （6）社会に対する興味・関心についての分析（本校の傾向）

○新聞・TV等でニュースを見ている生徒が多く、社会や地域の出来事に関心を持っている。

△地域の行事に参加することが少ない。（部活動などで時間をつくれない）

### （7）規範意識についての分析（本校の傾向）

○約束や規則などを守ろうという規範意識が高い。



※ **学習状況調査（生徒質問紙）より、全体を通じての対策（全教職員の取り組み）**

【まとめ】 ～ 本校の現3年生（調査時は2年生までの生活状況を回答）の特徴 ～

- ① コミュニケーションの意欲が高く、自尊心も規範意識も高い。また、家族のつながりや、保護者の学校活動への関心も高い。
- ② 家庭生活をみると、ゲーム・NETの使用時間が減少し、家庭学習の時間は増加傾向にある。
- ③ 宿題や約束など、与えられたことをしっかりこなしている。

【対策】 ～ 本校の取り組みの成果が出ているので、今後も継続していく重点として ～

- ① 様々な方法で、教師からコミュニケーションをとる工夫や、寄り添う指導を継続していく。役割を果たすことによって、自己実現と社会参加ができるということを意識させ、体験させる。
- ② 目標に向かって、正直に、真摯に取り組むことの大切さを今後も伝え続ける。
- ③ 「校内外の生活の約束」（特に携帯電話等の使用を含めて）や「学習の心得」の定着を継続する。約束や心得（ねがい）など、全教職員が共通認識をもって組織的に指導に当たる。